

科 目		必・選	担 当 教 員		学年・学科			単位数	授 業 形 態	
現代アジア論 Current Issues of Asia		選	赤崎 雄一 重松 正史		2 年生 メカトロニクス工学専攻 エコシステム工学専攻学科			学修単位 2	半期 週 2 時間	
授業概要		アジア諸国の抱えるさまざまな社会・経済問題を、歴史的背景を重視しながら解説する								
到達目標		1. 国際的視野を持った技術者をめざし、日本とアジア諸国とのつながりから、宗教・多民族社会など異文化理解を深める。								
評価方法		本科目の成績は、1回の小テスト（60％）、自由研究の報告（30％）、提出物（10％）で評価する。100点満点中60点以上の評価で合格とする。								
教科書等		プリントを配布								
内 容		(1回の自宅演習は260分を目処にする。)							学習・教育目標	
第 1 回	アジアと私たち	(自宅演習)							A	
第 2 回	近代日本のアジア進出ー日本商品の販売ー	(自宅演習)							A	
第 3 回	戦後、日本企業のアジア進出	(自宅演習)							A	
第 4 回	グローバル化する日本企業	(自宅演習)							A	
第 5 回	日本とアジアの文化的社会的関係（1）	(自宅演習)							A	
第 6 回	日本とアジアの文化的社会的関係（2）	(自宅演習)							A	
第 7 回	上海史	(自宅演習)							A	
第 8 回	学生による報告（1）	(自宅演習)							A	
第 9 回	学生による報告（2）	(自宅演習)							A	
第10回	中国経済	(自宅演習)							A	
第11回	消費市場としてのアジア	(自宅演習)							A	
第12回	東南アジアの経済と観光	(自宅演習)							A	
第13回	東南アジアの宗教事情	(自宅演習)							A	
第14回	環境と開発	(自宅演習)							A	
第15回	全体のまとめ	(自宅演習)							A	

1. 合格ラインについて、特に記載の無いものは、60点以上を合格とします。

# 現代アジア論ガイダンス

「現代アジア論」では大きく3部に分かれて構成しています。

## 第1部 「アジアと日本」

### 第1回 ～ 第3回

アジアと日本との間に歴史的問題は避けて通れない問題です。アジアと日本との溝を作る近現代史の問題を簡単に整理します。続いて、日本発の多国籍企業は全世界で活動し、安価なアジア製品が日本に流入しています。アジアと日本の経済的関係は深まる一方です。特に日本企業のアジア進出に注目し、その歴史的経過について学びます。

## 第2部 アジア諸国の政治・経済・文化

アジア地域で日本企業・日本人が受け入れられるにはその国の歴史・文化を理解する必要があります。「東アジア」、「東南アジア」の2地域に分け、それぞれの地域への理解を深めます。

### 第4回 ～ 第7回、10回、11回 「東アジア」

中国、韓国、台湾の政治・経済状況に注目し、この3カ国の急激な経済発展の要因を探る

### 第12回 ～ 第15回 「東南アジア」

現代東南アジア世界に重大な影響を与える植民地化の問題にも注目しながら、この地域の経済発展を考える。一つの例としてインドネシアに注目し、この国の政治、豊かな文化に触れる。  
また、イスラーム社会は日本人に理解されにくい社会といわれる。この地域の文化と日本人との摩擦に触れながら、異文化を尊重する必要性を学ぶ

## 第3部 学生による報告

### 第8・9回 学生による報告

アジアに関して学生自らが調べ、パワーポイントを使用し報告する。お互いに質問しあうことにより、より深い理解を目指す。